

## 〈卓球〉ジャパンオープン荻村杯

2018ITTFワールドツアージャパンオープン荻村杯が6月6日から10日までの5日間の日程で、市制55周年を記念し北九州市(福岡県)で開催されました。

この大会は国際卓球連盟(ITTF)主催のワールドツアーとなっており、世界の卓球界の発展に貢献した故・荻村伊智朗氏の功績を讃え、1995年大会より「荻村杯」の称号が付与されています。エリートアカデミーからは宇田君、張本君、長崎さん、木原さん、小塩さんの5名が出場しました。

宇田君と小塩さんは予選トーナメントで敗れましたが、長崎さんと木原さんは勝ち上がって決勝トーナメントに進出しました。しかし、2人は決勝トーナメント1回戦で惜しくも敗退しました。

一方、決勝トーナメントからの出場となった張本君は順調に勝ち進み、準々決勝でリオオリンピック2冠の馬龍(中国)を4対2で破ると、決勝でもロンドンオリンピック男子シングルス優勝の張継科(中国)にゲームカウント2対3から逆転し、4対3で破り初優勝を果たしました。

張本君の優勝は大会史上最年少であり、また中国のエース級の2人を破ったことは、日本卓球界にとっては歴史的な快挙です。今後、2020年に向けて更に勢いを増していくことでしょう。



【写真:日本卓球協会HPより】

日本レスリング協会のホームページでも「『強いな〜』と高橋が登場する度に、周囲から漏れるため息。体格に加えて身のこなしは、会場に一人だけ高校生がいるような存在感があった。」とその強さを讃えていました。111選手がエントリーした激戦階級の全試合の、そのパーフェクトな戦いぶりが評価され、最優秀選手に贈られる沼尻杯を受賞しました。

また、女子44kg級に出場した坂本さんも決勝はきわどい試合となりましたが、接戦を勝利し、初優勝を飾りました。その結果、優秀選手として茨城県協会会長賞の2つを受賞しました。

## 〈アーチェリー〉

### 全日本小学生・

### 中学生アーチェリー選手権

6月16・17日の2日間、山中湖交流プラザ(山梨県)第13回全日本小学生・中学生アーチェリー選手権大会が全国から選ばれた96名が参加して開催されました。

第1日目の予選ラウンドは、霧雨が降る肌寒い中、指先が冷える最悪のコンディションで行われましたが、伊藤君が687点という大会新記録で第1位、野田君は、646点で第2位として通過しました。特に野田君にとっては、中学生になってから初めて、かつ、1番大きな試合であり、さらに初めての長い距離(60m)の試合となりました。そのような状況下でも、日頃の練習通りに試合を運べたことは大変大きな収穫でした。

第2日目の決勝ラウンド、伊藤君、野田君は1、2位通過で指導権を獲得し、決勝まで顔を合わせることがなく「決勝で会いましょう」と約束をして、試合に臨みました。

野田君は惜しくも準決勝で敗退しましたが、気持ちを切り替え、3位決定戦で勝つことができました。一方、伊藤君は最後まで安定したパフォーマンスを発揮し、昨年に続いての優勝を果たしました。決勝ラウンドの試合方式は、選手が1対1で対戦する方式で行われるため、技術以外の部分も多く求められることとなります。

2日間の試合を通して学ぶことが本当に数多くあり、今後の競技者人生における大きな財産となりました。

## 〈レスリング〉全国中学生選手権



【写真:日本レスリング協会HPより】

第44回沼尻直杯全国中学生選手権が6月10・11日の2日間、青柳公園水戸市民体育館(茨城県)で開催され、高橋君と今年度入校したガレダギ君、菅野君、坂本さんが出場しました。ガレダギ君はベスト8、菅野君はベスト16で敗れましたが、男子53kg級に出場した高橋君は決勝までの7試合すべて第1ピリオドでテクニカルフォール勝ちし、無失点の素晴らしい内容で勝ち抜いて、昨年度の47kg級に続き2連覇を達成しました。



【伊藤君(左)、キムコーチ(中央)、野田君(右)】



## 〈アーチェリー〉関東選手権

関東高等学校アーチェリー大会が6月9・10日、茨城県つくば市久木崎運動公園で開催され、高見姉妹と渡邊さんの3名が出場しました。

初日に行われた個人戦は、予選ラウンドで渡邊さんが632点で1位、高見(愛)さんが619点で第2位、高見(朋)さんが586点で4位につけました。この結果、3名の総得点で争う団体戦予選も1837点で1位通過となりました。なお、この点数は男子団体のトップよりも高い得点でした。午後の個人決勝トーナメントは、渡邊選手が決勝まで安定したシューティングを見せ、完勝といってもよい結果で優勝しました。勝因は「絶対に優勝する！」という強い気持ちを持ち続けたことでした。

2日目の団体戦の決勝トーナメントは、強風でベストコンディションではありませんでしたが、2回戦から決勝戦まで圧倒的な実力差で優勝を果たしました。初出場で個人戦・団体戦優勝と2冠に輝くことができたことは大きな自信となりました。その勝因は、勝つという目的のために、毎日の練習の中で「絶対に勝つ」と思い続ける気持ちと自分の力量を分析し目的達成のための手段がきちんと考えられて実行されているかが勝負の分かれ目となるということです。これをインターハイ、ナショナルチーム選考会でも実行できるようにさらなる精進を続けていきます。

## 〈飛込〉日本室内選手権



【安田さん(右)】

2018年度日本室内選手権飛込競技大会(翼ジャパンダイビングカップ)が6月15日から17日まで東京辰巳国際水泳場で開催されました。今シーズン開幕となる大会であり、各選手にとってはシーズンオフの成果を占う重要な位置づけの大会でもあります。

安田さんは3m飛板飛込と高飛込の2種目に出場し、3m飛板飛込で予選は8位でしたが、決勝では安定した入水で3位となりました。安田さんは7月の世界ジュニア選手権(キエフ:ウクライナ)への出場が決定しており、それに向けた大きな自信となりました。今後は高難度の演技を完成させるための筋力づくりが課題となっています。

遠藤君は、3m飛板飛込と1m飛板飛込の2種目に出場しました。ケガのため万全な体調ではない中で試合終盤まで冷静に競技に臨めたことは大きな成果でした。

## 〈修了生の活躍〉

6月に開催された、2つの大きな大会において、修了生が大活躍しました。

【全日本選抜レスリング選手権大会兼世界選手権選考会】

- ・乙黒 拓斗(山梨学院大2年) 男子フリースタイル65kg 優勝
- ・乙黒 圭祐(山梨学院大4年) 男子フリースタイル70kg 2位
- ・白井 勝太(日本大大学院1年) 男子フリースタイル86kg 優勝
- ・須崎 優衣(早稲田大1年) 女子50kg 優勝
- ・宮原 優(博報堂DY) 女子53kg 2位
- ・向田 真優(至学館大3年) 女子55kg 優勝
- ・南條 早映(至学館大1年) 女子57kg 3位
- ・古市 雅子(日本大4年) 女子72kg 3位

※白井君と向田さんは世界選手権(10月:ハンガリー)代表内定

【日本室内選手権飛込競技大会】

- ・伊藤 洸輝(日本大1年) 男子3m飛板飛込 優勝

## 〈教育プログラムスタート〉

エリートアカデミーでは①目指すアスリートとなるために資質の向上を図ること、②エリートアカデミーの一員としての自覚を高めることを目的として、年間を通じて様々な教育プログラムを実施しています。

教育プログラムは、知識や技能の定着を目指し定期的・継続的に実施するプログラム(継続型)と、アスリートとしての心構えやチームエリートアカデミーの一員としての意識を高めるために実施するプログラム(単発型)で構成されています。

6月から継続型プログラムが始まり、次の表のような日程で2月まで実施して行く予定です。なお、言語教育と言語技術教育は月に2回(年間16回)、英会話は毎週2回(年間60回)の実施です。

また、学習会は学校の定期テストに向けては、集中講義を別に実施する予定です。

時間	月	火	水	木	金	土	日
19:00							
19:30	言語技術教育						
20:00	言語教育						
20:30			学習会①	英会話①	学習会②	英会話②	
21:00							
21:30							
22:00							

公益財団法人 日本オリンピック委員会  
JOCエリートアカデミー事業  
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1  
味の素ナショナルトレーニングセンター  
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356